



在宅医療・介護で

自分らしく生きる

住み慣れた場所で診察や治療、処置などを行う在宅医療・介護は、病院や介護施設への通院・通所が難しい方が、定期的に自宅や入居施設で医療や介護を受ける仕組みです。訪問する医師や看護師、介護士などから、さまざまな医療や介護サービスを受けることで、自宅でも安心して療養生活を送ることができます。



在宅医療・介護を連携させる仕組み

在宅で療養生活を進めていくうえで、日常の診療や治療、健康管理を担うのは、かかりつけ医です。

しかし、在宅で療養する方それぞれが抱える問題を解決し、希望に沿った生活を進めていくためには、医師の他にもさまざまな人たちの協力が欠かせません。

本市は「鈴鹿市地域包括在宅医療ケアシステム」のもと、市民が住み慣れた地域や家庭で療養しながら生活が送れるよう医療、介護、福祉などの関連職種が連携して支える仕組みづくりを進めています。

在宅医療を始めるには？

状況に応じて、まずは各機関へ相談しましょう。



自宅で療養している場合

- ・かかりつけ医に相談
- ・ケアマネジャーに相談
- ・地域包括支援センターに相談 など

病院に入院している場合

- ・病院の医療ソーシャルワーカーに相談
- ・退院調整、地域連携などの相談窓口相談

在宅療養中

さき い 崎井あい子さんのとある1日

かかりつけ医からのアドバイスをきっかけに、在宅医療を利用する市内在住の崎井さんとそのご家族。崎井さんのとある1日を紹介します。



9時



看護師さんが訪問し、体温や血圧を測ります。

血圧測りますね～

10時



歯医者さんが訪問し、口の中の状態を確認します。

目標はお寿司を食べること！

12時



ランチタイム。この日のメニューは卵のおかゆです。

11時



訪問入浴サービスで入浴します。

湯加減どうですか～？

14時



お医者さんが訪問し、診察します。

胸の音を聴きますね

15時



おやつタイム。大好きなプリンを食べます。

おいしい～♡

17時



作業療法士さんが訪問し、足をマッサージします。

足をほぐしますね～

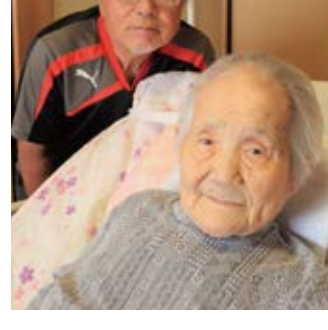
16時



毎日、近くに住むひ孫が会いに来てくれます。



本人と家族の声



きめ細かなサービスで家族も安心

崎井 清司さん(70歳)

母を自宅で介護しようと思ったとき、自分たちでできるのかと思いましたが、助けてもらえるサービスがあると知って気持ちが楽になりました。家族だけで行うのは大変なことも、フォローしてもらえますし、専門の方に頼れるので安心です。スタッフの方が温かく接してくれて感謝しています。

多くの方のサポートに感謝

崎井 あい子さん(94歳)

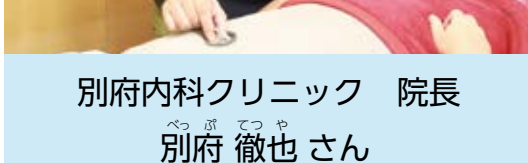
家族や介護・医療スタッフの皆さんが団結してサポートしてくれて、とてもありがたいです。初めは人のお世話になることに気が引けることもありましたが、皆さんが一生懸命に支えてくれる姿を見て、自分も頑張らねばという気持ちになりました。

在宅療養を支える

多職種の連携



本市は、医療、介護、福祉などの職種が連携して支える「鈴鹿市地域包括在宅医療ケアシステム」を推進しています。



別府内科クリニック 院長
別府 徹也 さん

在宅で診察を行います。患者さんがどんなことでも相談できるように、話しやすい雰囲気作りを心掛けています。他の職種とも連携して、チームワークで患者さんをサポートします。



訪問リハビリテーション事業所
パークヒルズ高塚 理学療法士
小川 泰平 さん

生活に不安がある方の日常生活の動作を改善したり、硬くなった身体をほぐしたりします。簡単なことから、少しずつできることを増やし、家族の介助の負担軽減につなげています。



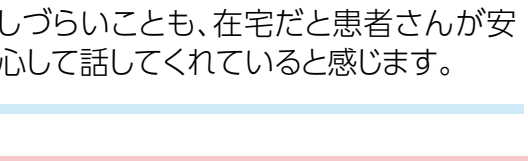
訪問看護ステーションオレンジ
管理者 藤林 由紀 さん

血圧・体温測定や点滴、入浴の介助など、医療行為や日常生活のケアを行います。利用者さんやご家族の生活を大事にしながら、一人一人のニーズに合わせたケアを心掛けています。



いふな薬局 管理薬剤師
岡田 圭二 さん

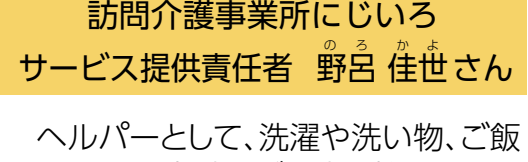
医師が処方した薬を患者さんに届け、薬の説明や飲み方のお話をします。訪問することで、残っている薬や患者さんの状態が把握できます。薬局の窓口だと話しづらいことも、在宅だと患者さんが安心して話してくれていると感じます。



訪問介護事業所にじいろ
サービス提供責任者 野呂 佳世 さん

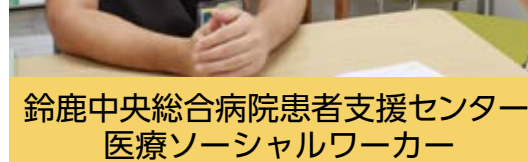
ヘルパーとして、洗濯や洗い物、ご飯やお風呂の介助など、利用者さんの日常生活をサポートしています。暮らしを良くする仲間だという気持ちで、利用者さんの思いに寄り添います。

Medical Social Worker



鈴鹿中央総合病院患者支援センター
医療ソーシャルワーカー
敷下 茂樹 さん

医師やケアマネジャーなどと共に、患者さんが病院を退院後に、在宅で必要なケアを受けられるように調整します。在宅でどう過ごしたいか、どんな治療を受けたいかなど、患者さんの気持ちを大切にします。



Resora 居宅介護支援センター 管理者
山本 裕一 さん

ケアマネジャーとして、利用者さんの在宅での医療・介護プランを家族と一緒に考えます。利用者さんと家族双方の思いを聞きながら、ポロっと出た大事な言葉を聞き逃さないように、傾聴を心掛けています。



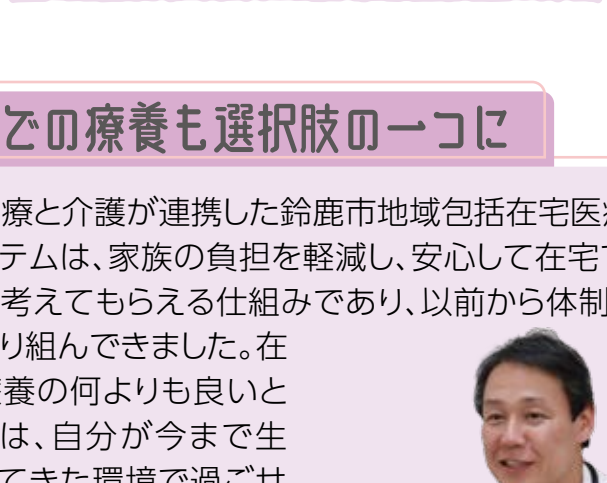
第7地域包括支援センターりんどう
センター長
青島 秀和 さん

在宅での介護・医療に関する相談を受けたり、介護保険の申請のサポートをしたりします。在宅での介護が初めての方は不安も大きいため、親身に相談に乗り、丁寧に説明します。

信頼できる人と「人生会議」をしよう

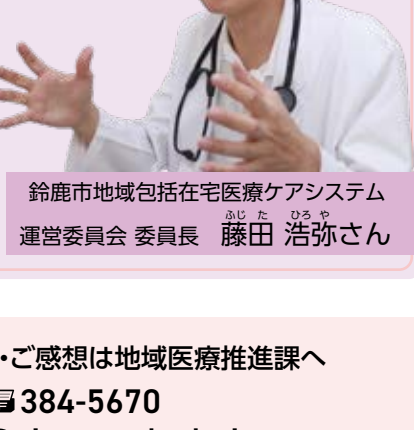
「もしも」のときのために、自分自身が望む医療やケアについて、前もって考え、繰り返し話し合い、共有する取り組みを「人生会議(ACP:アドバンス・ケア・プランニング)」といいます。

超高齢社会、新興感染症の感染拡大など、もしもに備えることが求められています。人生の最終段階においては、どのような医療やケアを望むか、自分自身で考えることが重要な時代になっています。自分が大切にしていることや、どのような人生を、あゆみ、どのような医療やケアを受けたいのか、信頼できる人たちと話し合ってみましょう。



在宅での療養も選択肢の一つに

医療と介護が連携した鈴鹿市地域包括在宅医療ケアシステムは、家族の負担を軽減し、安心して在宅での療養を考えてもらえる仕組みであり、以前から体制づくりに取り組んできました。在宅療養の何よりも良いところは、自分が今まで生活してきた環境で過ごせることです。病院や施設だけではなく、選択肢の一つとして在宅療養があることを、皆さんに知って欲しいです。



鈴鹿市地域包括在宅医療ケアシステム
運営委員会 委員長 藤田 浩弥 さん